

年 組 名前：

問1

ちゅうおうし のうえん かいぱつ
中央市のトマト農園で開発したカレーの
しょうひんめい とくちょう か
商品名と特長を書いてください。

商品名

特徴

問2

のうえん りょうさん めざ しきん
トマト農園は、量産を目指し、資金を
クラウドファンディングで集めています。
いがい へんれいひん しゅるい
カレー以外の返礼品を2種類、
こた
答えてください。

.....

.....

問3

かいぱつ はんばい
このカレーを開発し、販売することは、
いみ おも
どのような意味があると思いますか。
かんが か
あなたの考えを書いてください。

.....
.....
.....



規格外トマトでカレー 中央市の農園 量産めざす

「トマト農園」ヨダファーム（中央市藤巻、功刀隆行代表）は、自社農園で収穫した規格外のトマトを使った「無水トマト糀カレー」を開発した。インターネットで資金を集める「クラウドファンディング」を活用して量産を目指している。寄付者に返礼品として贈る。

同農園によると、1人分のレトルトパックで、200g入り。変形などで市場に出荷できないトマトと、タマネギなどをこうじ糖を入れて煮込み、「トマトのこくを引き出し、うま味と適度な酸味の誰にでも食べやすいカレー」に仕上げる。野菜を煮込む際に出る水分で調理し、水は加えていない。

農園は18日から1千万円を目標にクラウドファンディングを開始。寄付者には金額に応じてカレーのほか、自社の畑で収穫したトマトや農業体験ができる権利などを返礼品として用意している。11月15日までクラウドファンディングサイト「Makuake」内で受け付けている。

寄付が順調に集まれば来年1月までに一般販売を始める。功刀代表は「半年前から開発を進めていた自信を持ってお薦めできるカレー。市場に

(2022年8月31日付 山梨日日新聞7面)

出回らないおいしいトマトの味わいを多くの人に届けたい」と話している。(山本昂輝)